

過疎化が進む地方都市において、私は近隣に住む人々とのつながりがもてる、街にひらかれた住宅をつくるのが大切なのではないかと考えます。近所に住むおばあちゃんたちとの何気ない会話など日常の中の些細なふれあいが街の至る所で生まれることで、都会では体験することのできない豊かな生活が描けるのではないのでしょうか。

今回私が設計の対象として選んだのは、若夫婦と子供のための住宅です。過疎化が進む都市の活性化を図るうえでこうした世代の人々にいかに関心を持ってもらうかが重要であると考えたからです。将来この家で育った子供が一時的に外へ出ていくことがあったとしても、家族ができた時にまた再びこの故郷に戻ってきたいと思わせるそんな住宅を提案します。



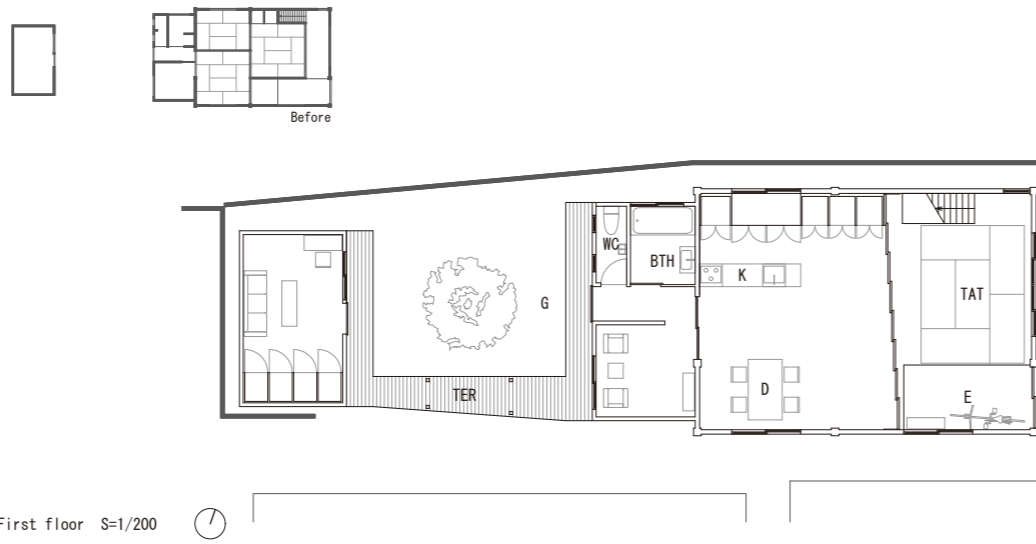
Section model

Plan

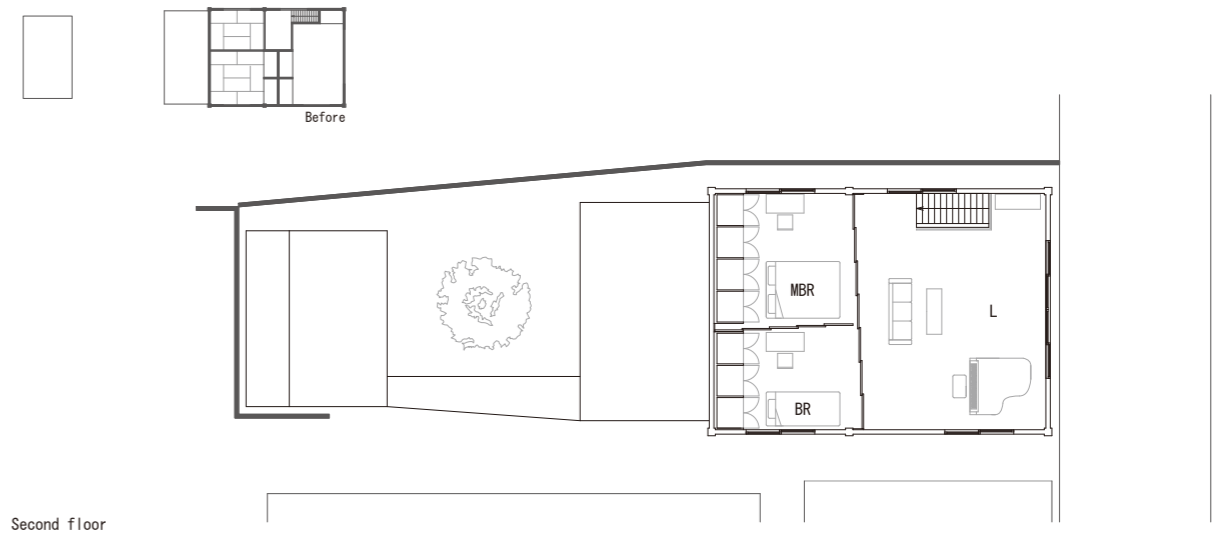
リノベーションの手法としては、まず既存の建物から間仕切りや収納などをすべて取り払い、いったん大きな箱の状態にした後で、新たに可動式の間仕切りを設けることで、将来のライフスタイルの変化に柔軟に対応できるような自由度の高いプランとなるよう計画しました。

1階は主にパブリックな空間とし、道路面に対して土間や畳の部屋を設けることで近所の人々を引き込みます。またキッチンの場所を変更し、対面式とすることで小さな子供の様子を見ながら家事ができるようにしました。この二つの部屋は障子を用いることによってパブリックとプライベートの境界をあいまいにし、緩やかにならざるを得ない友人達を呼んでパーティーを開いたりすることもできるようになっています。中庭の中心には一本の木を植え、その木を取り囲むように縁側を設けることで、ここにもまた人々の集まる場をつくり出しています。老朽化していた屋根は新たにかけ直し、倉庫だった場所は離れとして再利用します。

2階は主にプライベートな空間とし、可動式の間仕切りによって必要に応じて部屋をつくり出すことができるようになっています。子供が一時的に外へ出て行った時には大きなワンルームとして使うこともでき、時間のできた夫婦の新たな趣味の場にしたり、近所の人々を招いて教室を開くことが可能になっています。



First floor S=1/200



Second floor



老朽化した倉庫は離れとし、趣味の空間とする。



中庭に植えられた木を縁側空間が取り囲む。



対面式のキッチンは家族に賑わいをもたらす。



2階は可動式の間仕切りによって大きなワンルームとして使うこともできる。



人々を引き込む畳の間。ダイニングとは障子で緩やかにつながる。